

平成 30 年 3 月 9 日

外務省国際協力局
民間援助連携室長 殿

(団体名)認定 NPO 法人 IVY
代表理事 枝松直樹

NGO相談員による出張サービス実施報告

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり、実施致しましたのでご報告致します。

記

1. 企画名:「難民を知り、日本の国際協力を考える」
【形態:相談対応サービス・講演・セミナー・その他(ワークショップ)】
2. 出張者氏名:阿部真理子
3. 依頼元／主催等団体名:山形県立酒田西高等学校
4. 実施日時:平成 30 年 2 月 15 日(木) 14 時 25 分～15 時 55 分
5. 実施場所:山形県立酒田西高等学校 山形県酒田市東泉町5-9-5
6. 実施の概要

対象:酒田西高等学校 1年生199人

人数が多かったこともあり、パワポを使用した難民についての講演だったが、要所所で生徒が自ら考える時間を取り、ワークショップ形式も取り入れながら進めていった。

弊団体のカンボジアにおける農業支援(N 連事業)、イラク・クルド自治区におけるシリア難民・イラク国内避難民支援(N 連、JPF 事業)、ユースによるカンボジア算数教育支援について、事業背景、事業内容等について、説明を行った。東北にも弊団体のように海外に拠点を置き活動している NGO を初めて知ったという声も聞かれ、日本の NGO が行う国際協力活動、ODA について、高校生の理解を促進することが出来た。

<生徒のアンケート結果から>

- ・ 自分は、難民について何も知らなかったことに気付いた。
- ・ 難民の人たちにとって、物資を配布することも必要だが、生きていく上で必要なサービスを充実させることも大事だと思った。
- ・ お金も必要だが、経験値のある支援する人(NGO)も必要だ。
- ・ 難民キャンプの中の学校に通っている子どもたちがいることを、初めて知った。
- ・ 負の連鎖を断ち切るためにも、難民の子どもたちへの教育は必要だ。
- ・ 山形からも海外で活動している人たちいることが、驚きだった。
- ・ 戦争が起きないようにするためにも、教育支援は必要である。

所感

教員の中に、4名もの JICA 海外協力隊員の OV がいるためか、教員、生徒の国際協力に対する関心の高さが窺えた。しかし、国際協力 NGO が近隣にないため、NGO か

ら話を聞く機会はほとんどないので、出張サービスを利用でき、国際協力を行っている団体から直接話を聞くことが出来たことは、生徒たちにとって貴重な機会となったと、担当の先生から感謝の言葉をいただいた。

以上



左上: NGO相談員についての説明
右上: 講演を聴く生徒たち
左下: パワポを使つての講演

平成 30 年 3 月 9 日

外務省国際協力局
民間援助連携室長 殿

(特活)国際協力 NGO センター
理事長 谷山博史 印

NGO相談員による出張サービス実施の報告

NGO相談員による出張サービスを下記の通り実施いたしましたので、ご報告申し上げます。

記

1. 企画名：国際理解セミナー&平成 29 年度 JICA 教師海外研修授業実践報告会
2. 出張者氏名：伊藤衆子
3. 主催団体名：（公財）ちば国際コンベンションビューロー、JICA 東京
4. 実施日時：平成 30 年 2 月 24 日（土）12 時 30 分～16 時 00 分
5. 実施場所：ワールドビジネスガーデン マリブウエスト 4 階 会議室 4
（千葉県美浜区中瀬 2-6-1）

6. 実施内容と効果・所感

1)実施内容

「国際理解セミナー&平成 29 年度 JICA 教師海外研修授業実践報告会」には幅広い年代の市民が 100名ほど参加しており、開始前と休み時間、終了後に相談対応および相談員制度の広報を行った。

セミナーではフォトジャーナリスト久保田弘信氏による中東の現状についての講演があり、JICA 教師海外研修授業実践報告会では、ベトナムおよびザンビアでの研修をどのように授業に反映したかの報告があった。参加者は60歳代以上の人も多く、関心が高く活発な質疑応答があった。持参した NGO 相談員制度のチラシ、ODA 冊子、NGO 冊子は全て参加者が持ち帰った。

- ・ 相談対応件数：3件
- ・ 主な相談者層：学生、社会人
- ・ 主な相談内容：
 - NGO 活動に関する質問
 - 多文化共生や国内の国際問題への関わり方等
 - NGO の就職・インターンについて

2) 所感

- ・ ちば国際コンベンションビューローおよび千葉の国際協力推進員のご協力により、相談ブース設置及び会場アナウンスによって制度の紹介をしていただいた。ただ、外務省主催であることが強調されたため、気軽に相談するには少し敷居が高くなってしまったようであった。
- ・ JICA ボランティア経験者、外務省 OB、高校生、地域でボランティア活動をしているシニア層など、国際協力に関心の在る参加者が集まっていた。

7. 交通費精算: 月次請求

相談ブースと会場の様子



以上

2018年3月9日

NGO 相談員による出張サービス実施報告

特定非営利活動法人 難民を助ける会

企画名： 「関西国際保健勉強会ぼちぼちの会での勉強会」講師派遣
開催日時：2018年2月17日（土）18時30分～20時30分
主催者： 関西国際保健勉強会ぼちぼちの会（代表：山口晶子）
場所： 大阪市立総合生涯学習センター第4研修室
出張者： （正・副・その他）特定非営利活動法人難民を助ける会 北朱美
参加者数：8名

実施内容：

国際保健に携わる大学教員や医療分野で働く社会人、国際保健分野におけるボランティア経験者、医学生、看護学生などで構成される、「関西国際保健勉強会ぼちぼちの会」が行う勉強会で、国際協力NGOが取り組む保健に関わる支援活動について紹介した。活動の事例として、当会がスーダンにおいて実施している感染症（マイセトーマ）対策事業を例に挙げ、事業を開始した背景、事業の意義、活動の内容、今後の課題についても説明した。同事業は当会が小規模に実施する事業であるため、日本政府による日本NGO連携無償資金協力事業やジャパンプラットフォームの助成による大規模な事業との比較も行った。その他、NGOの強みとして、現地で培ってきた現地政府や現地団体とのネットワークを活用し、建設や人材育成、啓発活動などを組み合わせた包括的な支援が可能であることについても触れた。

後半は、参加者が講義を通して学んだこと、驚いたこと、わからなかったこと、さらに聞いてみたいことについてグループワークを通して話し合い、特に疑問や質問について出張者が回答する形で進められた。マイセトーマはスーダン現地においてもあまりよく知られていない感染症であるが、マイセトーマに対する現地住民のとらえ方や偏見、伝統医療との関係性など、医療の視点からのみならず、社会的な視点からも多くの質問を受けた。勉強会の最後には、本勉強会を受けてこれから取り組もうと思うことについて参加者それぞれが考えた。

所感：

関西国際保健勉強会ぼちぼちの会は、毎月1回、参加者が国際保健について学びあう会であり、一般市民に開かれた会でもあることから、国際保健分野に関心の高

い市民や学生へ今後さらに同会が広まっていくことを期待したい。同会は講義やグループワークを通して、すべての参加者が参加し、学びあうことができるような構成となっており、今後の出張サービスにおいて同様の進め方を取り入れるのも効果的であると感じた。

参加者の学生からは、就職先として NGO を選んだ場合のやりがいや課題についても質問を受け、NGO の実状を直接伝えられたことは大変意義深かった。



講義の様子



グループワークでは、講義に関する参加者の疑問や質問に答えながら、参加者の理解を深めた



勉強会を通して今後取り組もうと思うことについてそれぞれの参加者が考えた

2018年3月9日

NGO 相談員による出張サービス実施報告

特定非営利活動法人 難民を助ける会

企画名： 鹿児島大学国際ボランティアサークルかごみん主催イベント「日本と世界の難民の現状を知る」への講師派遣

開催日時： 2018年2月24日（土）14時～17時

主催者： 鹿児島大学国際ボランティアサークル かごみん（代表： 菅谷里香）

場 所： 鹿児島大学郡元キャンパス（鹿児島市郡元 1-21-24）

出張者： （正・副・その他）特定非営利活動法人難民を助ける会 穂積武寛

参加者数： 12名（1名は中途退出）

実施内容：

鹿児島大学の学生で構成される国際ボランティアサークル「かごみん」は毎年具体的なテーマを設定し、キャンパスでのイベント開催や海外でのボランティア・プログラムへの参加などを行っている。

今年度はテーマを「難民問題」とし、学園祭でAARの活動の写真パネル展示を行った。さらに講演会を企画し、九州地区のNGO相談員である福岡NGOネットワーク（FUNN）に相談した。本件はFUNNがAARに実施協力を要請したことにより実現したものである。

イベントは「難民支援について考えよう」と題して一般にも参加を呼びかけ、かごみんのメンバー全員とOB/OGを中心に12名が参加して行われた。

全体を2部構成とし、前半では難民問題の概要とAARの取り組みについてレクチャーを行った。後半は全体を小グループに分け、ワークショップ「わたしが難民になったら」を実施した。シリア難民としてトルコで避難生活を送るという設定で、そこからどうするのかを、グループ毎に個別に設定した家庭事情も踏まえて議論してもらった。

全体におとなしい印象ではあったが、時間が経過するにつれ、下すべき決断の難しさ、複雑さに気づいたのか、徐々に議論が白熱していく様子が見て取れた。時間的な制約もあり、最終的に議論が収斂せず、複数の可能性を残したままとなったグループも出たが、安易に周りの意見に合わせるのではなく、自分の意見をしっかりと根拠も含めて表明してほしいというこちら側の要請はきちんと意識してくれてい

たように思う。

サークルの規模は小さいが、こつこつと活動を継続しており、来年度はボランティア・サークルの全国連絡会への参加も計画しているとのことで、AAR との共同企画も検討したいとのことであった。大学生のこうした真摯な取り組みには AAR としてもできる限り協力し、支援の裾野を広げていきたい。



イベント参加者と出張者

2017 年度第 3 回国際理解教育実践セミナーにおける NGO 相談員ブース出展 出張サービス報告書

実施団体：開発教育協会／DEAR

日時：2018 年 2 月 3 日（土）13 時 00 分～17 時 00 分

場所：JICA 筑波（茨城県つくば市高野台 3-6）

事業名：2017 年度第 3 回国際理解教育実践セミナーにおける相談対応

主催団体：JICA つくば

実施内容：相談対応（相談ブース出展）

セミナー会場において、国際協力、開発教育や国際理解教育に関する相談ブースを出展した。開発教育や国際理解教育、教材や資料等に関心のある茨城県および栃木県の教員や学生が参加し、相談に対応した。

所感および効果：

セミナーでは、今年度、茨城県から教師海外研修にタンザニアに派遣された教員が、帰国後に所属先の各学校での海外研修で集めた素材を活用し、実践した授業の様子やガーナでの海外研修について報告をおこなった。また、小学校・中学校の先生による模擬授業もおこなわれた。

参加者は教員が中心だったが、学生もおり、国際協力に関心の高い層が集まっていたこともあり、熱心な意見交換が行われた。今後もタンザニアやガーナ、諸外国とのつながりを保っていきたいと考える方も多く、当該地域で活動する NGO や団体についての情報を探していたり、持ち帰ったリソース（民族衣装、写真、楽器、教科書等）をどのように活用したらよいか検討したりしている方が多かった。

相談員として、NGO 等の団体や個人をご紹介したり、他校での開発教育の実践例、リソースの活用方法などをご紹介したりした。NGO 相談員制度を知らない先生方も多かったため、チラシを配布し周知をおこなった。

また、茨城県と栃木県から JICA の国際協力推進員の方が来所されていたため、今後の連携の可能性についても話し合うことができた。



よこはま国際フォーラム 2018 における NGO 相談員ブース出展 出張サービス報告書

実施団体：開発教育協会／DEAR

日時：2018年2月3日（土）13：10～15：00

場所：JICA 横浜（神奈川県横浜市中区新港 2-3-1）

事業名：よこはま国際フォーラム 2018

主催団体：よこはま国際フォーラム 2018 プロジェクト事務局

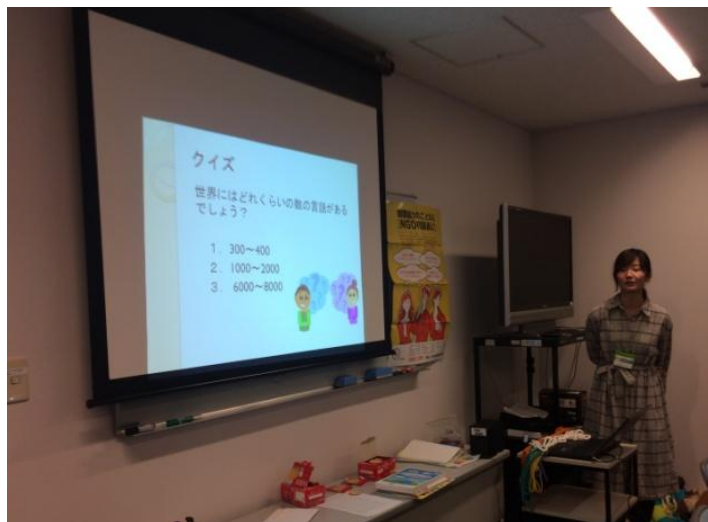
実施内容：ワークショップの実施

神奈川県内で活動する団体を中心に、NGO や国際協力、開発教育や国際理解教育に関する団体が一堂に会する「よこはま国際フォーラム 2018」において、ワークショップ「世界がもし 100 人の村だったら～SDGs について考えてみよう～」を実施した。

所感および効果：

当協会が実施したワークショップには、27 名の方が参加してくれた。参加者は老若何女様々で、「世界の現状をもっと知りたい」・「SDGs について理解を深めたい」・「参加型学習を体験したい」と、参加目的も様々であった。参加型のワークショップであったこともあり、立場や年齢が違う中でお互いに学びあいながら世界について考えるワークショップができたように感じている。参加後のアンケートでは「SDGs が出来た背景を体感することができた」「貧富の差が生まれた背景を考えさせられた」「世界のために色々と行動していきたい」というような意見が多数みられ、世界の現状や自分たちとの繋がりを体感的に捉えた上で、前向きにその解決のために行動したいと考えるきっかけとなったようだ。

また、ワークショップの前後に、開発教育の教材や SDGs に関する資料などについても質問を受けることができ、NGO 相談員の広報にもつながった。



平成 30 年 3 月 10 日

外務省国際協力局
民間援助連携室長 殿

特定非営利活動法人アイキャン
代表理事 田口 京子

NGO相談員出張サービス実施報告書

NGO相談員による出張サービスを実施いたしましたので、下記の通りご報告致します。

記

1. 企画名：恵那市立中野方小学校における講演会
【形態：相談対応サービス・**講演**・セミナー・その他（ ）】
2. 実施者：特定非営利活動法人アイキャン 吉田文
3. 日時：平成 30 年 2 月 14 日（水）10 時 40 分～11 時 25 分
4. 場所：恵那市立中野方小学校 3F パソコン室（恵那市中野方町 2353 番地 1）
5. 参加者：恵那市立中野方小学校 6 年生の児童 12 名、教諭 1 名
6. 実施報告：

恵那市立中野方小学校の「社会科」の授業において、6 学年全 12 名および担任教諭 1 名を対象に出張講演を行った。本講演では、フィリピンで路上生活をする子どもたちや、中東イエメンやフィリピンの紛争下で生きる子どもたちが置かれた現状や課題、そこでの NGO 活動を、写真や現地から届いた子どもたちの声を交えて紹介した。対象児童が 12 名という少人数であったため、適宜児童に問いかけたり、発表や考える時間を作るなどして、課題をより深く考えてもらえることを意識した。質疑応答では、「吉田さんが小学校 6 年生の時はどのようなことを考えて過ごしていたのか」、「何がきっかけで NGO に入ったのか」、「今日の話以外で、関心のある国や課題は何か」等、世界規模の課題や NGO 活動への関心を高めてくれたと思われる多くの質問をいただいた。岐阜県の中でも山間部にあり世界とつながる機会が極端に少ないこの地域において、今回の企画を通し、児童の世界への関心を喚起するとともに、できることを考えるきっかけ作りができたのではないかと思う。

7. 写真



以上

平成 30 年 3 月 9 日

外務省 NGO 相談員 出張サービス報告書

相談員 公益社団法人 日本国際民間協力会（NICCO）

大豊 盛重

<概要>

企 画 名：「第 25 回ワン・ワールド・フェスティバル」での相談対応

イベントの種類：相談対応サービス

実施日時：平成 30 年 2 月 3 日（土）4 日（日） 各日 10 時～17 時

場 所：関テレ扇町スクエア/大阪府大阪市北区扇町 2 丁目 1-7
北区民センター2 階ロビースペース/大阪市北区扇町 2-1-27
（相談員ブース設置場所は北区民センター2 階）

主催団体名：ワン・ワールド・フェスティバル実行委員会事務局

出張者氏名：（所属団体 相談員氏名）

（公社）日本国際民間協力会（NICCO）	大豊盛重/岡田克彦
（特活）日本国際協力 NGO センター（JANIC）	伊藤衆子
（特活）日本国際ボランティアセンター（JVC）	池田未樹
（特活）アイキャン（ICAN）	伊井恵
（特活）関西 NGO 協議会	松岡秀紀/谷川詩織/高橋美和子
（公財）PHD 協会	坂西卓郎/古寺瑞代
（特活）AMDA 社会開発機構	山上正道

<実施内容>

平成 30 年 2 月 3 日と 4 日の 2 日に渡り、大阪市北区で開催されたワン・ワールド・フェスティバルに於いて、「NGO 相談員ブース」を設置し、市民や NGO 関係者からの相談に対応した。ワン・ワールド・フェスティバルは西日本最大の国際協力・交流のイベントであり、25 回目を迎える今回は約 25,000 人が来場した。2 つに分かれた会場のうち北区民センター2 階に NGO 相談員ブースを設置し、上記 7 団体の NGO 相談員で開催時間を通じて 2 人体制のシフトを組み、国際協力や NGO の活動について 86 人、101 件の相談対応を行った。加えて、来場者に対して、NGO 相談員制度の周知を図るため、NGO 相談員制度のリーフレットを配布した。

<集客人数または相談対応件数>

- ・ 2 月 3 日（土） 49 人、51 件
- ・ 2 月 4 日（日） 37 人、50 件
- ・ 2 日間合計 86 人、101 件

<所感及び効果等>

NGO 相談員ブースを設置した北区民センター2 階は、NGO や国際交流団体、学生団体などがブースを出展するホールの入り口の外であったため、来場者が必ず通過する場所であった。また、入り口外には JICA のキャリア相談ブースや外務省のキャリア相談ブースと並びにあったため、キャリア相談を希望する相談者にとっては、それぞれのブースで相談することにより、違う視点での相談が可能だった。また、当ブースは 7 団体の交代制でシフトを組んでいるため、時間帯をずらすことによっても、多様な相談が可能であった。相談を希望している市民にとっては、多様な相談が可能で実施体制は有益であると考えられる。

他の相談内容で具体的な例としては、NPO を立ち上げたいが全くやり方がわからないので、話が聞きたいという学生が訪れた。この学生は、すでに学生団体のリーダーとして活躍していたが、卒業する際に脱退し、自分で NPO を立ち上げたいという志を持っていた。立ち上げ時に必要な定款の作成、法人の登記、社員総会、理事会の設置や理事の選任などの手続きや、活動を持続可能なものにするための収入源など、実際に NPO を経営している立場で解説することが出来た。引き続き相談対応ができるように相談員団体がフォローアップしていくことも可能である。

<活動風景（写真記録）>



相談対応の様子



NGO 相談員ブース前で、呼び込みチラシ配りを行った。



相談員が協力して対応している様子

平成 30年2月2日

外務省国際協力局
民間援助連携室長 殿

(団体名)公益財団法人PHD協会
理事長 水野 雄二

相談員企画型出張サービス実施報告書

1. 企画名:「関西学院高等部での国際協力についての講演及び交流」

※出張形態:講演

2. 出張者:坂西 卓郎((公財)PHD協会職員)

3. 実施日:平成30年2月2日(金)10時10分～11時35分

4. 場所:関西学院高等部(兵庫県西宮市上ヶ原一番町 1-155)

5. 対象者 :スーパーグローバルハイスクール、GLP 対象者21名
教員6名、計27名

6. 実施報告:

関西学院高等部はスーパーグローバルハイスクールの認可を受けており、国際理解教育に熱心な学校である。今回は GLP という特別授業に参加した学生を対象に NGO 相談員として講義を行った。本授業は選択制であり、人数は少ないが総じて意欲の高い学生たちであった。

内容は NGO と外務省の連携について、N 連や N 環などのスキームを説明し、具体的にどのように連携を構築してきたのか、また現状はどうなっているのかを説明し、その後 NGO 相談員の説明を行った。

その後、NGO 概論からミャンマーでの地雷の課題、ネパールでの乳幼児死亡率の高さの課題、インドネシアにおける森林火災、ゴミ問題など、 이슈ごとに講義を行った。またこの講義では当会の各国の研修生も生活者としての視点から現状を報告してもらった。

最後にグループディスカッションを行い、テーマであった地域コミュニティ、については直接研修生とのディスカッションを行った。さすがに普段から国際協力について学んでいる学生たちで活発な質疑応答が展開されており、学生も研修生も充実感を得ていた。

また貴重な機会ということでスーパーグローバルハイスクール担当の先生方に加え、同行の校長先生も同席をしてくれており、「内容の密度からすると時間が短かった。もっと時間を用意すべきだった」とのコメントをいただいた。本講義を受けた学生の中から確実に何人かは国際協力の現場に関わると思われ、大変有意義な出張サービスであったと思われる。

7. 添付画像: 当日の様子を2枚添付

① NGO 相談員制度及び外務省と NGO の連携について説明している様子



② グループディスカッションで地域コミュニティについて議論中



NGO 相談員出張サービス実施報告書

1. 企画名：「つながるワークショップ」体験会（形態：相談対応サービス・講演・広報活動）

主催：独立行政法人国際協力機構 中国国際センター（山口県 JICA デスク）

共催：下関市立大学 World Shows & Knows (WSK) サークル

後援：下関市

2. 実施者：山上正道（特活）AMDA 社会開発機構

3. 日時：2018年2月24日（土）13時-18時

4. 場所：下関生涯学習プラザ（〒750-0016 山口県下関市細江町三丁目1番1号）

5. 参加者：9名

6. 実施報告：

下関市立大学 WSK サークル、山口県 JICA デスクのファシリテーションによるワークショップ実施後に、団体の活動現場の実例に基づいた国際協力や NGO/NPO 活動、開発途上国の課題や現状について紹介し、参加者同士が認識している社会課題を共有し、自分たちにできることを考える機会となった。

NGO 相談員として国際協力の現場における実際の活動について話し、社会課題に対しアクションを起こすことの重要性について考えることにより、国際協力に対する更なる関心を深める機会となったと考える。

また、個別相談対応では、国際協力へのキャリアパスや、大学生が実施している国際協力活動の事例などを紹介した。

2月23日には、中国ブロックの地域 ESD 活動推進拠点である中国 ESD 活動支援センターを訪問し、NGO 相談員の PR と今後の連携について協議を行った。

7. 別添（写真）



ワークショップの様子

NGO 相談員出張サービス実施報告書

1. 企画名：春の民間助成金説明会&相談会（形態：相談対応サービス）
2. 実施者：山上正道（特活）AMD A社会開発機構
3. 日時：2018年2月26日（土）14時-16時20分
2月27日（日）10時-12時20分
4. 場所：26日 鳥取県庁 講堂(本庁舎1階) 鳥取市東町1-220
27日 鳥取県西部総合事務所 講堂（本館2階）米子市糺町 1-160
5. 参加者：26日 80名
27日 100名
6. 実施報告：

公益財団法人とっとり県民活動活性化センターが主催した「春の民間助成金説明会&相談会」にて、NGO相談員制度、NGO連携無償基金、NGO補助金、JICA草の根技術協力などのODAスキームや、助成金・補助金等の支援制度の紹介を行い、相談会では相談員ブースを設置し、来場者への相談に対応した。

説明会では、社会課題の解決をめざす全国的な助成プログラムや民間非営利団体の資金調達手法の最近の動向について報告するとともに、様々な民間助成制度及び、鳥取県による各種補助金等の説明が行われた。説明会後は各助成金、補助金及び、NGO相談員のブースが設置され個別相談会が行われた。個別相談では、鳥取会場2名、米子会場2名の相談に対応し、外務省によるNGO相談員制度とそのサービス内容、ODAスキーム、助成金・補助金等NGOの支援制度の紹介や海外渡航に関する情報を提供した。国内支援を主流としたNPOの参加者が大多数であったが、事務局運営や広報・資金調達などNGOと共通する相談も多く、NGO相談員のサービスが地方のNGO/NPO組織の運営能力の底上げ・強化に寄与できたと考える。また、海外への支援等も視野に入れている団体もあり、今後地方発のNGO/NPOによるODAの優良案件の発掘につながることを期待したい。

7. 別添（写真）



個別相談会（鳥取会場）



説明会（米子会場）

NGO 相談員出張サービス実施報告書

1. 企画名：地方創生コンファレンス in 徳島における情報発信
【形態：相談対応サービス・講演・セミナー・その他（情報発信）】
2. 実施者：竹内 よし子（特定非営利活動法人えひめグローバルネットワーク）
3. 日時：平成 30 年 2 月 11 日（日）13 時 00 分～16 時 30 分、
平成 30 年 2 月 12 日（月・祝）9 時 00 分～11 時 30 分
4. 場所：牟岐町海の総合文化センター（徳島県海部郡牟岐町大字川長字新光寺 82）
5. 参加者数：生涯学習、社会教育等関係者 約 60 名
6. 実施報告：四国各県から生涯学習・社会教育等に関係者が参加する本会において、参加者全員に相談員制度のチラシ、SDGs 関連資料を配布するとともに、会場の掲示コーナーでは四国環境パートナーシップオフィス（四国 EPO）および四国地方 ESD 活動支援センター（四国 ESD センター）と連携し、本制度および SDGs、ESD の情報発信を行った。プログラムでは、分科会ごとに四国各地域で行われる地方創生に向けた取り組みについて事例紹介が行われ、情報収集を行った。また、参加者からの個別の相談にも対応した。

[主な対応内容]

- ① 相談内容 行政より徳島ではエシカル消費を進めており、横ぐしを刺すネットワークづくりをしたいとの相談。
対応 SDGs の動きを活用すること、相談員制度や四国 ESD センターを活用することを提案した。
- ② 相談内容 企業より公民館を拠点とした ESD の取り組みに関して相談。
対応 岡山で活発であること、文科省がアジアの国でも日本の CLC として発信していることなど情報提供した。

7. 所感および効果：SDGs への関心が高まっている参加者が集まり意見交換したところ、「SDGs カードゲーム」の講師となり研修を実施できる方がいたので、早速次の機会へのチームが立ち上がった。相談員も SDGs をフルに活用しながら ODA、NGO 活動について説明するなど、スキルアップすると良い。

8. 別添（写真）



相談員制度について紹介



相談対応の様子

平成 30 年 3 月 8 日

NGO 相談員出張サービス実施報告書

1. 企画名：清和女子中高等学校における国際理解授業
【形態：相談対応サービス・講演・セミナー・その他（ ）】
2. 実施者：高山 莉菜（特定非営利活動法人えひめグローバルネットワーク）
3. 日時：平成 30 年 2 月 19 日（月）9 時 00 分～9 時 50 分
4. 場所：清和女子中高等学校（高知県南国市明見 98）
5. 参加者数：中学校 3 年生 8 名
6. 実施報告：社会科の授業における「持続可能な社会をめざして」の單元において、ESD、SDGs 等の最新情報を紹介し、持続可能な社会の実現に向けたグローバルな動向について情報提供した。また、国際協力活動の具体例としてモザンビーク、ラオス、ネパール、カンボジアの現状や課題、NGO 活動を紹介した。

[主な対応内容]

- ①相談内容 持続不可能な開発とは何か。
対応 世界で起こっている貧困、開発、教育、環境問題等の情報について資料をもとに紹介した。あわせて、四国の NGO がアジア・アフリカで実施する国際協力活動について情報提供した。
- ②相談内容 身近にできる国際協力について知りたい。
対応 一人の消費者として、生産者に配慮した商品の選択を心掛けることも、国際協力につながることを紹介した。

7. 所感および効果：当学校はユネスコスクールに認定されており、オーガニックの穀物栽培等の実践に取り組んでいることから、持続可能な社会づくりに向けた地域での活動と世界規模の取り組みのつながりを確認しつつ、生徒の関心を深めることができた。

8. 別添（写真）



授業の様子



相談員制度について紹介

NGO 相談員出張サービス実施報告書

1. 企画名：「国際交流市民ボランティア入門講座」における相談対応
【形態：相談対応サービス・講演・セミナー・その他（ ）】
2. 実施者：高山 莉菜（特定非営利活動法人えひめグローバルネットワーク）
3. 日時：平成 30 年 2 月 25 日（日）13 時 00 分～16 時 00 分
4. 場所：コムズ 5 階大会議室（愛媛県松山市三番町 6 丁目 4-20）
5. 参加者数：国際交流・協力に関心のある市民 約 40 人
6. 実施報告：全体会における活動紹介では、参加者全員に本制度のチラシを配布し、制度を活用した取り組みや、出張サービスの事例について紹介し、活用を呼び掛けた。また、具体的な国際協力活動の事例としてモザンビークにおける NGO 活動について紹介し、情報提供を行った。相談対応ブースでは、本制度のポスター・チラシ、グローバルローカルかるた、冊子「四国・国際協力団体と ODA」、ESD、SDGs 関連資料の展示などを行うことで情報発信しつつ、参加者からの国際交流・国際協力に関する個別の相談や質問に対応した。

[主な対応内容]

- ① **相談内容** NGO の資金源は何か教えて欲しい。
対応 団体によって異なるが、主に会費、寄付、事業収入、助成金、委託金等があることを説明し、具体例として当団体の資金源についても情報提供した。
- ② **相談内容** 四国で国際協力活動を行っている団体は他にあるのか。どのような団体があるか教えて欲しい。
対応 冊子「四国・国際協力団体と ODA」の団体の活動紹介ページの内容を確認しながら、県内の国際協力団体について紹介した。また、冊子の中に国際交流・国際協力を行っている団体のリストが掲載されていることも確認し、関心のある団体があるか参考にしてもらうこととした。

7. 所感および効果：本講座には、国際交流や国際協力活動に関心のある市民が参加しており、今年度は、昨年の参加者数よりも多くの市民が参加していた。参加団体としては、国際協力活動を行っている団体は少なく、国際交流を主な活動としているところがほとんどだった。国際協力への市民の参加・参画の入口として国際交流への参加があることを認識し、本講座等で参加者がより多くの活動を知ることに関連団体とつながることのできる場として活用されていることを確認することができた。

8. 別添（写真）



相談員制度について紹介



相談対応ブース

NGO 相談員出張サービス実施報告書

1. 企画名：宮崎県の国際協力機関等への広報及びネットワーキング活動
2. 実施者：北風 友（特活）NGO 福岡ネットワーク
3. 日時：平成 30 年 2 月 1 日（木）13 時 00 分～17 時 00 分
2 月 2 日（金）10 時 00 分～13 時 00 分
4. 場所：JICA デスク宮崎（宮崎市橘通東 4-8-1 カリーノ宮崎 9F）他
5. 実施報告：

今回の出張サービスでは①地域の国際協力や多文化共生に関する状況のヒアリング②NGO 相談員事業の紹介③NGO 相談員受託団体の活動紹介④NGO 相談員受託団体との連携可能性の検討を目的として実施した。JICA デスク宮崎、公益財団法人宮崎県国際交流協会、宮崎大学、国際協力ネットワーク宮崎として活動している 3 つの NGO 団体を訪問した。

JICA デスク宮崎、宮崎県国際交流協会、宮崎大学では、主に宮崎県内における国際協力や国際交流の現状についてヒアリングを行った。国際交流センターでは国際交流や多文化共生事業として市民向けの様々なプログラムを実施しており、登録している約 60 の団体もそれぞれ活動しているとのことであった。また、宮崎大学は現在草の根技術協力事業を受託しミャンマーでの支援活動を行っていることや、宮崎市内に拠点を置く NGO 団体で組織された国際協力ネットワーク宮崎と包括的連携協定を締結していることから、宮崎県の国際協力活動に力を入れている様子が伺えた。この国際協力ネットワーク宮崎を設立したジア砒素ネットワーク、地雷ゼロ宮崎、国際子ども支援団体 Heart&Hand の 3 団体（設立当初は 4 団体）との意見交換の場も持たせていただき、県内の国際協力の現状について貴重な意見を伺った。それぞれが自身の団体の活動がある中で宮崎の「国際協力啓発」のためにネットワーク組織としても活発に活動されており、年に 3 回は大きなイベントを主催しているとのことであった。NGO 相談事業として NGO 福岡ネットワークとの連携の可能性を具体化していきたいと考える。

今回の訪問では宮崎の国際協力・交流についての現状についてのお話を伺えただけでなく、NGO 相談員事業について広報活動を行う中で今後の具体的な連携について話し合いを持つことができた。

6. 写真添付



NGO 相談員出張サービス実施報告書

1. 企画名：鹿児島県の国際協力機関等への広報及びネットワーキング活動
2. 実施者：原田君子（特活）NGO 福岡ネットワーク
3. 日時：平成 30 年 2 月 6 日（火）13 時 00 分～16 時 00 分
4. 場所：JICA デスク鹿児島（鹿児島市山下町 14-50 かがしま県民交流センター 1 階）等
5. 実施報告：

JICA 推進員・かがしま県民交流センターの方へ NGO 相談員事業、出張サービスについての説明を行いました。出張サービスについては理解して頂くよう簡単な事例を紹介しながら説明をさせて頂きました。出張サービスについて知ってはいるが時期のタイミングなどもあるので今後利用については前向きに考えていきたいとの事でした。

鹿児島県内で活動・活躍する国際協力についての団体や交流団体に広げ、現状を伺いました。昨年の訪問時との変化について伺いましたが、団体についての変化はないとの答えでした。しかし、課題として今後団体の休止や縮小などの状態が増えつつあるのは各県との同様でした。学生の国際協力については、興味はあるが学生の活動の場が少ない為ボランティアやインターンといった場が少ないとの話しを聞きました。

多文化共生に関しては鹿児島でも外国人の増加に伴い交流の場やセミナーを行うなど多文化共生に関する事は増えてきているとの事でした。

今後信頼やコミュニケーションを構築するためには 1 年に一度の訪問に加え、顔が見える関係性を保つための努力がまだまだ必要だと思いました。

6. 写真添付



NGO 相談員出張サービス実施報告書

1. 企画名：熊本県の国際協力機関等への広報及びネットワーキング活動
2. 実施者：原田君子（特活）NGO 福岡ネットワーク
3. 日時：平成 30 年 2 月 8 日（木）13 時 00 分～16 時 00 分
4. 場所：JICA デスク熊本（熊本県熊本市中央区花畑町 4-18）等

5. 実施報告：

本企画は、NGO 相談員の認知度向上と、NGO 相談員と国際協力機関等との協働の機会を目的として訪問して来ました。

具体的には熊本の国際協力活動団体の実情、実態や、外国人が増えてきている事から熊本市内の多文化共生の取組についてなど伺い、話し合ってきました。

国際協力の活動団体に関して数は増えてはいないとお話でした。任意団体として活動している団体はあると思うが、小さな団体活動までは把握が出来ていないのが実情とお話でした。

共通する課題としては年々 NGO 団体の活動が縮小あるいは減少傾向がある事でした。

熊本県の外国人の増加の傾向についてのお話しも伺いました。外国人の方の為の取り組みについて、多文化共生の取り組みも伺いました。チラシも作成され多文化共生の講座開催の広報もされており積極的に多文化共生について取り組んでいる様子が伺えました。

6. 写真添付



NGO相談員による出張サービス報告書

1. 企画名：NGO 相談員って何だろう？
Silencio Roto 16 Nikkeis in 沖縄
2. 出張者氏名：上原真紀、大仲るみ子
3. 団体名：「Silencio Roto 16 Nikkeis」実行委員会
4. 実施日時：平成 30 年 2 月 4 日（日）10 時 00 分～17 時 00 分
5. 実施場所：南風原文化センターホール（南風原町字喜屋武 257 番地）
6. 参加者：140 名
7. 実施報告：

【概要】

「Silencio Roto 16 Nikkeis」の映画上映会の会場内にブースを、NGO 相談員制度や当センターの活動内容について知ってもらった。国際社会や市民活動、平和について関心の高い方々が多く参加していた。市民活動等に関心の高い方の参加が見込まれることから、NGO 相談員制度について伝え、今後の相談員制度活用につなげたいと考え実施した。

【所感】

映画に参加した方の多くは、国際社会や市民活動等に関心の高い方が大方だったと感じた。映画を通して初めて知った事実もあり、そのことに関して自分でも何ができるのかを考えた方が、映画終了後に話を聞きに来ていた。今後県内で取り組める国際理解等の活動を一緒にしていきたいとの相談があり、当センターの活動紹介につなげ、NGO 相談員を知ってもらおう機会となった。

【写真】

